

終活

元気な今だから考える

グラフで見る

「新型コロナウイルスに関する意識調査」

—高齢者の多くが「コロナ&インフルの同時感染と第3波の到来を懸念」—

国内初の新型コロナウイルス感染者が発見されてから11ヶ月が経ちました。本誌編集部では、北九州市内在住の高齢者がコロナ禍の日常生活をどのように過ごし、また心配し、どのような対策をとっているのか緊急調査を行いました。



市内に住む60歳以上の高齢者（本誌読者、市民センター・公民館のクラブ活動参加者、スポーツクラブ会員、自治会・老人会・社会福祉協議会の役員など）を対象に標記調査を実施しました。

調査結果は誌面の関係上、2回に分けて報告します。今回は調査対象者157名の年齢・家族構成などの属性および新型コロナウイルス対策や冬場の懸念材料、GoToキャンペーンなどについての集計結果をとりあげます。

あなたが日頃とっている新型コロナウイルス対策は？

回答者の6割が団塊の世代を中心とする70代、家族構成は夫婦世帯が約6割を占め、性別では男性が4割、女性が6割を占めていました。

そこで、第1波・2波を体験した当市の高齢者が取り組んでいる新型コロナウイルス

対策を聞いてみたところ、各年代とも

①手洗・マスク・検温が断トツの1位に、次に②3密回避 ③部屋の換気、そして④身体的距離の確保 ⑤外出機会の抑制と続いています。

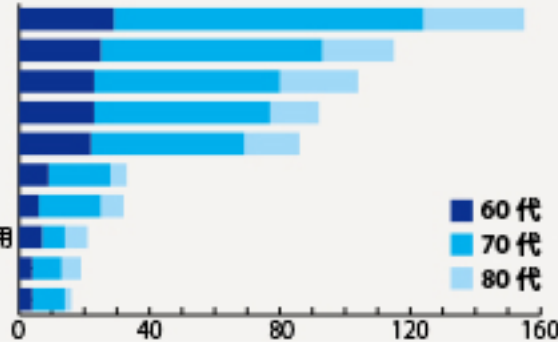
真冬になると外気や暖房による乾燥で室内の空気感染が心配されることから、加湿器の使用および部屋の換気などが必要となります。特に、家庭用エアコンは空気を循環させるだけで室内の換気は行えないので1時間に2回、2方向の窓を2〜3分全開しようとする労者は呼びかけています。

あなたは参加しますか？ GoToキャンペーン

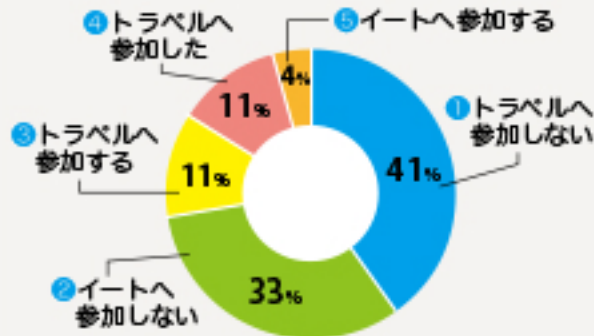
1日あたりの新規感染者数は11月中旬以降、2500人超と過去最多を更新していく中で、GoToキャンペーン継続の是非が問われています。GoToトラベルへ参加した、参加

Q1 あなたが日頃とっている新型コロナウイルス対策は？

- 1 手洗・マスク・検温
- 2 3密回避
- 3 部屋の換気
- 4 身体的距離の確保
- 5 外出機会の抑制
- 6 メール・LINEの利用
- 7 徒歩・自転車の利用
- 8 通販・宅配サービスの活用
- 9 持ち帰り・出前の活用
- 10 電子決済の利用

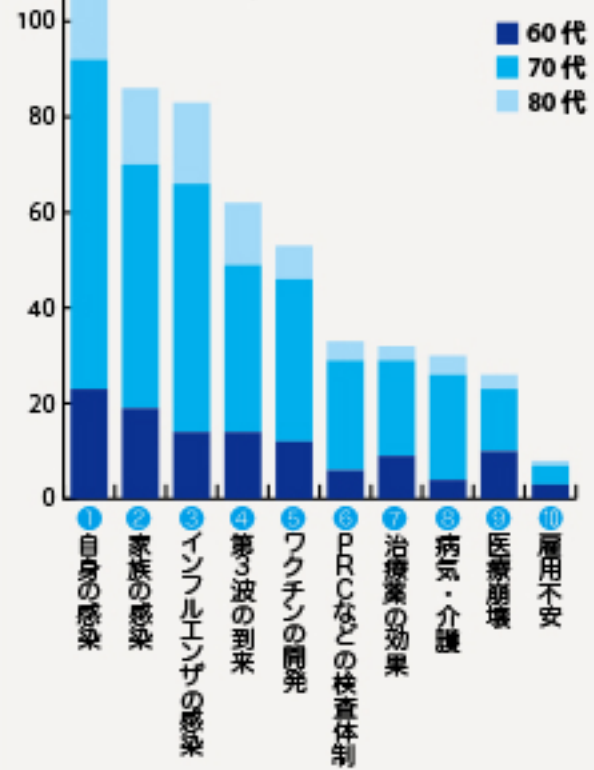


Q2 GoToトラベル、GoToイートあなたは参加しますか？



※ GoToイート欄は11月上旬からスタートしたので、調査時点の10月では「イートに参加する」しか項目として採り上げませんでした。

Q3 コロナ禍で冬場を迎えたあなたが懸念することは？



コロナ禍で冬場を迎えたあなたが懸念することは？

本格的な冬に突入する1月頃には第3波が到来すると予測されています。そこで、冬場を迎えあなたが一番懸念す

ることは？と尋ねたところ、7割の人が①自身の感染、5割の人が②家族の感染と③インフルエンザの感染が恐いと答えました。

今冬はコロナとインフルの同時流行が医療界から指摘されており、この対策として福岡県では発熱症状が出た患者には、地域の医療機関に指定した1050の「診療・検査医療機関」にて受診できる体制を整備しています。現在、名前を公表している診療所・病院は県内で279施設（当市では54施設）があります。

一方、4割近くの人が④第3波の到来を懸念しています。当市では「緊急事態宣言」解除後の5月23日以降に第

2波が到来したことから、同時流行に備えて感染および重症化のリスクが高い高齢者施設や介護施設に対し、入所者全員へPCR検査を実施することを昨秋発表しました。

また3割の人が⑤ワクチン開発をあげていますが、新型ワクチンが人類が初めて使う遺伝子ワクチンが大勢を占めていることから、治療まで含め10年かかるものを1〜2年で実現しても副作用など大丈夫なのでしょうか？

今回はコロナ禍における生活習慣の変化や収束後に一番したい事は？などについてとりあげます。

シニアスタッフ 上田篤彦